せてはいけないと思っているよう せっかく命があるのだから、

らにのせて、

「冷たくなっている

聞いて、私たちが急いで部屋から

と元気のない声で言っているのを

中でも、授業中ででも時々思い出

しては心配した。後から聞いたこ

おりていくと父がうさぎを手のひ

とによると、あのあと姉たちが、

に「うさぎが死んでしまった。」 二・三日たったある朝、母が父

二・三日たったある朝、

たので、

こので、しかたなく私と弟は学校そのうちに学校へ行く時間がき

へでかけた。私は、

学校へ行く途

ミルクをのませた。母は、

死な

起こし、

また目をとじたままじっ

と動かなくなった。

ので母は夜中に、

いくどとなく起

一度にたくさんはのめない

なさないでのぞきこんだ。うさぎ

死んでしまったように動かな 時々、苦しそうにけいれんを

### ---人口の動き

11月末日現在 ( )は 月末との比較 口 男 女 2,960人(+8人) 世帯数 1,272世帯(+3) 死 生 5 亡 3 転 入 22



報

発 和島村役場企画課 発 行 日 昭和53年1月1日

一印刷所



苦労は 母一人である。また母の存在は、 私の家庭で 大きなものだ。母の いない。だから たよりといえば 私の小さいころから

ないのだから。 二人しか住んでい る。それもそのはず私の家に 普通というより 私には、おやじというか 私の家は 少し小さめであ

大きさからいうと 母母

### 0 存 在

┉ 広

報

みんなが回りから、

じっと目をは

せてやってくれよ。

」と言う。

「うさぎにおいしいものを食べさ

ゎ

ったので弟がもってきて、

わたで

に大きくなった。

父は、

時々、

包んだうさぎをまん中において、

どたつであたためなさい。」と言

なものを食べるようになり日に日

している。

近ごろは、うさぎは、

いろいろ

包んでやった。

すると父が「電気

望みがあると思って、厚いわたで と言ったので、私たちは、少しは けれど、まだ心臓が動いている。」

気を回復したということだった。

きるのは、

やはり、

二時間ほどたって、

うさぎは、

元

においのりしたかいがあってか、

一生けん命に世話をしたり、仏様

北辰中学校 三年 早

秀

く身にしみている。母兼そしてと

れた 学習が終わるまでおきていること は作ってくれる。私につき合ってかえってくるときでも 必ず夕食 きいたことがない。残業でおそく とても 言って勤めからかえってくると、 仕事を あの小さい体で きには、父という立場。家庭の外 っていると思われる。 2 つかれているのに いうことばは、 「只今」と 必ず夕食 良くや あまり つか

父が

びしく もある。 人には、

つ病気に対して、 人から聞かされたことだった。私 から母の口からでなく、親せきの 私には話さず、 う病気になった。 ことがある。 二年くらい前に母が病気をした たのだろう。前から胃を悪くし いたことから、 心配という文字だけで、何一 やはり、 わりに重くなって もちろん、母は 胃かいようとい してあげられな 疲労が重な

二人家族は数字の上では、

さび

T 2 らない家族の一員のようになって ペットというよりも、 新鮮な草の他、 もかわいいのだ。うさぎの好物は びはねたりする。その様子がとて かりんとうが大好きだ。今では、 上をつたって走ったり、 遊ばせてやるとうさぎは、 の上をいかにもうれしそうにと ーズ、それからおかしいことに 夕食後、うさぎを箱から出して りんご、バナナや なくてはな カーペッ いすの

にじゃれら・・・ たかあると 思われ

音楽 れる 楽し

迷惑をかけるなといつも ときには、父がわり しかって・・・。そして 老

どである。そして う点では、 って感じになっているのである。 だ。このような性格のあらわれた 感じられたのしくなって いく の動作がとても優雅におもしろく るつもりでも ぜか本人では、 っちょこちょいという所でも をいつもさそってくる。また にとても感情深くなって私の笑い って涙を流すのだ。子どものよう ٤ 分の気にいったものは、ぜったい を見ているときにである。 すこし涙もろく、 いろいろの形が「個性まるだし」 ドラマを見るのが好きで、自 いっていいほどのがさない たとえば 私にとっては、そ まじめにやって その時 夜、 よく母 きま

そんな時、 る。 母の体に、 おっている母を、もっと、 かった。そして、それ以来、 ってあげたいと思うば かりであ 考えてみるに 神経質になったのだ。 私は、苦労を一人でせ いたわ

きるのである。

どんな家庭でも

一つは

笑いのある時間をすごすことがで

性まるだし」から、私は、

いつも

しく感じられるが、こういう「個

る。 母は、 別に特別 どういう感じかと、 にぎやかに作って 二人だけの家庭を <

どを見かける。

よく鼻歌をうたっているところな 歌がすきで 夕食を作りながら とくに、母は、うまくはないが、 にじゃれるということであろう。

に囲まれて毎日を過ごすことがで 私はこのようににぎやかな家族

見守っていてくれるからではない たうさぎが生き返ったのも仏様が ように御先祖様のおかげだと感謝 あんなに死にそうだっ 父や母が言う

を作っている。母の性格といえば あらわれてそこで家庭というもの ことかな、個性まるだしといってことかな、個性まるだし」という いという所である。涙もろいと もないが、母の性格が何かの形で 特色があるわけで おっちょこちょ 一言で れて テレビ

どで、 で母のことを書いてきたのは、 を にとって私だけの家庭であると の存在があるだけで、それで、 っていくのだと思う。私がいまま 一人一人がいるからこそ家庭を作 心があるからこそ、そして、家族 て音楽はたのしみの一つなのだ。 楽家族でもないけれど、母にとっ である。そんな、大げさな、小音 を思いだし、たのしんでいるよう をもってきて、 は、私の好きなフォークにも興味 自まんは、 楽しんでいるようである。 母は趣味の一つとして、 しや八代亜紀などの歌のレコ 私は、 音楽知識はなにもないけれど、 無心にきいている。 えん歌などでは、 お互いの気持を思いやる えん歌やクラシックな 二十才ごろの時代 わりと、 五木ひろ 最近で 母の御 私母

ほ

そ、今日もよくねむれるのである。 希望、母と私、ふたりであればこ えるからである。母の希望、

### 話合う 家族で 事故のない世界



島 村長 早 Ш 平三郎

波の中に沈んでいた為に、 生活も大変苦しい年であり されたことと存じます。 昨年は国の内外の経済が不況の 本年も村民の皆様が健康で迎年 私達の まし

感じがいたしました。年間経済成 和五十二年において極れりという 構造上からくる不況が重なって昭 内的には高度成長時代の残滓即ち 支の調整等重要問題が積滞し、国 予算案決定後、 の内容を検討いたしますと、 に遂行してまいりました。 の御協力によって当初計画どおり がらも村の主要事業は、村民各位 長率も遂に六%を割ることになり 施設が内示され、関連事業を含め 小学校改築を基本施策とした当初 て安易平穏なものではなく、 国際的には外貨保有高の増、 ル安からくる受注減、 このような状況にありな 国から勤労者体育 貿易収 ただそ 桐島 決し

円 ように処してゆくかに苦慮すると びしい国内経済を背景としてどの 激して行くかに期待をよせたいと 具体的内容がどのように景気を刺 以上の希望は持つことが困難であ びしい年となる予定であります。 すめることが出来ました。 めるという極めて至雑の内容であ って土地開発公社に委託し買い求 百万円の巨費は財政上の都合もあ けることになり、 して、 会社用地の売却という事態に直面 月に日本海コンクリ であります。 造成)を支出することにしたわけ 委託で二、六〇〇万円(土地取得 で七、七〇〇万円、 りました。然し概ね予定どおりす ころであります。 国内経済はこの儘では到底前年 さて新年度は昨年にも増してき これから示される国の施策の

広

報

た壱億円余りの経費は、 更に年度発足後の四 土地開発公社 ト工業株式 一般会計 した。

諸般の事情から之を譲り受 総額壱億壱千 で、

ころでありますが、 村の本年の主要目標は、このき 何と申しても

な村費、 取り 3 りますが、 これには補助金だけでなく相当

謝しております。 厚い御協力があったればこそと感 画し実施しているわけ であり

決定いたしました。 議会の御意向も承って次のように 発審議会に諮って答申を頂き、 有地の有効利用であります。 昨年買い求めました島崎地内の村 につきましては、 昨年村の総会開 これ 又

9

並びに勤労者から強い要望のあっ 円をもと金として、村民の若い層 た野球場をつくることにいたしま 再配置促進補助金約五千八〇〇万 ります。そして本年は先づ和島ブ 村民の福祉施設をつくることであ 中学校を此の地に移し、あわせて ルボンが立地したことに係る工場 近年中に改築が予定される北辰

配慮もあって予想以上の事業を計 せたいと考えております。 請中であります。そして秋の野球 した。この整地は目下自衛隊に要 の事業を推進することにいたしま たこの用地の年次計画による買い 昨年今年と、国や県の特別の御 ーズンには是非ともオープンさ 多少他の投資を加減してもこ これも村民各位並びに議会の も相当大きな額となりますの 税金を持ち出すことにな 土地開発公社に委託 ま

٤ 私は本年二月完成予定の体育館 更に隣地に立地が計

ポーツ施設が、村民各位にフルに画される総合グランド等一連のス 願っております。

設の貧弱さからといわれ、健全な えております。最近の巷にみる青すが、今日程必要な時はないと考 スポーツが忘れられているからで 少年非行も欲求のはけ口となる施 とは昔から言いかわされておりま

野球場で汗を流してプレ 連帯意識が育って行くと信じ とによって、 を期待いたします。 なスポーツの団体が、 ュニティ、近隣社会が形成され、 体育館におけるバレー、 バスケ

が出来ますようお願い申しあげてかで、しかも若く健康な村づくり 年頭のごあいさつといたします。 されることによって、 所存であります。 におかれましてもこの施設を利用 に公民館活動の組織に意を用いる に発揮し活用されるよう本年は特 どうぞ村民各位 身も心も豊

和な村づくりは何としても健康か 愛用され、すべての根源となる心

らであります。 と身体の健康増進に役立つことを 豊かで明るい平

あります。 健全な精神は健全な身体に宿る

からぞくぞくと誕生してゆくこと 勝した剣道和島チームに続く優秀 ト、或は柔剣道をとおしてコミ そして昨年全国青年大会で優 村民特に若い人達の この和島村 ーするこ ま

私はこれらの施設の機能がフル

### 簡易保険と学校

られる簡易保険が、公共施設の建 設のために役立っていることをご 存じでしょうい? られる簡易保険が、公 村民のみなさんが、

ています。 近い三千七百九〇万円を簡易保険 年度)桐島小学校の建設を行なっ 建設費のうち、約四〇パーセント ますと、九千五百一四万一千円の 積立金より借り入れる予定にな いますが、この費用についてみ 和島村では、現在 (昭和五十二

るからです。 これには、 次のような理由があ

ま

mm昭和53年1月1日 第53号mmmm

村内の最長老者である関川トキさ

瀬も近い十二月二十一日、

しみにしていられるそうです。

Ł

自分のことは何でも自分でや

関

III

丰

さん 九十七才

皆さんも一度荒巻の水を飲んでみ

長老島倉留蔵さんも荒巻ですから

水が良いといわれれば男性の最

てはどうでしょう

家族の人たちの補足によります

ハ

仕

Ł

大丈

んを訪ねてみました。

わ

もしないでいます。

布縫いをやっているが、

今は寒く

なってきたのでコタッに入って何

回りの草とりのほか家の中では雑

ズキ・ダイズの収穫手伝いや家の

腰は曲って

いるが、

秋などはア

体の調子は一

方に聞いてみました。

康そうで、

おばあちゃんと家族の

のしわは深いけれどもすこぶる健

孫はもう指がたらなく数えたこと

は七人、孫は二十七人、曾孫、玄

子や孫はと尋ねたところ、子供

もないほどだそうです。

憶しておられました。

とにかく、

心身ともに健やかな

生をしてください。

桐島小学校改築工事

昨年七月十八日着工以来、

急ピ

おばあちゃんです。これからも長

昔のいろいろな出来ごとをよく記

た、もの覚えが良いそうで、 られ手つだうことは何もなく

事実

明治十四年生まれ、さすがに顔

がちな方でしたが最近四~五年間

若い頃は丈夫な方ではなく病気

はかぜもひかず医者にもかかって

K までの間、信託された(お預かり 険金や配当金として支払いされる おられる簡易保険料は、 要となっています。そして、その の利益になるように運用するが必 した)大切な財産なので、 皆さんが加入され、 有利な方法で、そのうえ公共 積み立てて 将来、 確実 保

役割をはたしています。 わたしたちの村づくりにも大切な るためなのです。 このように、 簡易保険事業は、

### チで進められていた同校の校舎 理科教室 校長室 職員室 保健室 1 階平面図 487 m<sup>4</sup> WC 廊 準|備室 図書室 視聽覚教室 音楽教室 スタジオ 2 階平面図 429 m 利益は、 る

(お返しする) こととなって

加入者の皆さんに還元す

が完成し、

近代的な校舎 響を配慮した

教 育 相談室

下

## は健康表彰を受けておられます。 八月に長男の文二郎さん(七十 最近変わったことは-

歯と目・耳は

皿 広

いないそうで、

去年の敬老の日に

着いた色彩

Ł

通風、 採光、

音 日 之、

やがて落

改築工事は、

おゝづめを迎

ころで昼でもコタツで横になって も目の方は針に糸を通すのは眼鏡 歯は無く耳も遠くなったけれど 寝るのは八時 才 四才)が亡くなったことと、近所 れたそうです。 には病院まで見舞いに行って来ら いることが気になるそうで、十月 た長女の小林ハルさん へ嫁つがれ時々遊びに来ておられ が長岡市の病院へ入院されて 健康の秘けつは一 (七十六

通りで

した。

校舎の

運びとなりま

から使用する よいよ三学期

廊

水が良いのかも……… いで気楽にしていることと荒巻の 特別ないけれども、 無理をしな す。次の通り 内容、

だりしていますが仲間が少なくな

親せきの人や民生委

近所のおばあさんとお茶を飲ん

いることが多いです。

-一日の行動は-

朝は七時半ころ、

いらないほどです。

## 育苗センター完成

桐島農業協同組合が事業主体と 昭和五十二年度国の補助事

が完成しました。 なり、 業として進められていた育苗施設 同組合管内の農業情勢は兼業化

す。 年前から検討されてい たもの では将来農業の安定化を図るため数 問題を抱えています。 械を導入しており機械化貧乏等の が進み経営規模に関係なく大型機 今後さらに厳しくなる農業情勢 今回の事業

安定収穫が期待されます。 用で生産コストの軽減・良質米の とおりです。 に対して育苗施設・機械の有効利 育苗施設一式(百品規模) 導入された機械・設備類は次の

・ 救急は 119

以上のほか機械の格納庫です。 。コンバイン四条刈り二台 田植機四条植八台

かぜをひきやすくします。一時間のしめっぱなしでは空気が汚れてなどは8~20位に、かといって戸

20° 位 に、

かといって戸

会が多いものです。

ひかないように

したいものです。 しく行ないかぜ等ひ

所定事項を記入し提出して下さてありますから認印持参のうえ

(申込書は、各保育所に備付け

きやすくなっては困ります。 めます。あっためすぎてかぜをひ

居間

冬はとかく夜ふかし、

飲食の機

関係地域の保育所

◎あったかい空気を逃さない

すきまテープをはったり、

に一回は戸を開け換気します。

での長いカー

テンを下げるだけで

込みを、受付しますから希望の方

五

その他不明の点

各保育所主

任保母に照会して下さい。

次により申込みして下さい。

昭和五十三年度の保育所入所申

四

学校区の地域と同一、保育所の地域

保育所入所申込み受付

あったかさが増加します。

ma ( 4 ) mmm

一月中に

配偶者、 せん。 庁などに勤めている人およびその の人が必ず加入しなければなりま を除いた二十歳から五十九歳まで とられています。 加入する「国民皆年金」の仕組が 共済組合など、 と呼ばれる年金制度のいずれかに もが、国民年金や厚生年金・各種 国民年金には、会社や工場、 あるいは昼間部の大学生 いわゆる公的年金 官

大正2・1・

~大正2・

ました。

31 生まれ

保障としての老齢年金ばかりでな ころとあってみれば、それも無理 などは遠い将来のことと考えられ す。病気やケガで障害者になった な出来事にも年金が支給されま のないことでしょう。 るかも知れません。若さあふれる か遺児年金や寡婦年金などが支給 なったときには母子年金、そのほ あるご主人が亡くなり母子家庭に ときは障害年金、一家の働き手で 永い人生の途中における不幸 か 国民年金は老後の所得

月十五日は、二十歳となって 70歳になる人 ◎老齢年金を請求しましょう。 65 0 60歳になる人 65歳になる人
◎かけ金をかけ終りま · 31 生まれ

若い人たちにとって、 年金の話

わ

このことから、国民年金がわたされる仕組みになっております。 したちの生活に果す役割を十分

より確かなものにしましょう。 金に加入して、将来の生活設計を にご理解いたゞけると思います。 二十歳になったら、ぜひ国民年

ついて

早めに申込み下さい。 づいていますので、 れる方は次のことに御留意のうえ 協会傷害保険の加入申込期限が近 昭和五十二年度のスポ 加入を希望さ -ツ安全

大正7・1

~大正7・

入する必要はありません。 以降)加入しておられる方は、 加入申込期限は、 昭和五十三 加

◎老齢福祉年金を請求しましょ

・31生まれ 明治41・1

明治 41・

スポーツ安全協会傷害保険に

年一月二十日です。 三年三月三十一日まで加入でき 加入申込期限後は、昭和五十

月一日から同年三月三十一日 保険期間は、

よりお知らせ

公民館並びに体育協会

なおすでに(昭和五十二年四月

ス

ポ

ッ

練

깔

しんで下さい。

水道管の凍結に

用

心

ので、一般村民の皆さんも大いに の各クラブと合同で行っています

この機会を利用されスポーツを楽

\*

ませんので御注意下さい。 昭和五十三年二 ま

新民生・ 児童委員

民生・児童委員が左記のとおり 昭和五十二年十二月一日付で新

宇木ハナ子 中央、 川端、 道城

芳治 新田、 法善町、 寺

まりました。 氏名 小黒正三郎 上桐、 担当区域 7

高尾 菊子 北野、 荒巻、 

伞 塚田 大矢 ノブ 高畑、

宮田 小林 ツマ 長作 東保内、

善平 整 下の上、 駅前、 谷、 上小島谷、 阿弥陀瀬、 小島谷、 梅田、 下富岡、 下の下、 下

城ノ立◆両高、 日野浦、 村田、

小谷、

早川 藤田勇治郎 久須美十郎 若野浦 小島

中

谷 坂 へ申込み下さい。

別」「生年月日」「住所」を記 加入申込みは、同紙(様式はでの二ヶ月間です。 問いません)に「氏名」 を添えて体育協会事務局(公民 入し、保険料(一人百五十円) 「性

始は一月二十三日からです。

スポ

ーツ練習は、

一般村民と体育協会

り行っていますが、本年の練習開スポーツ練習は毎週左記のとお

一、スポーツ練習について

た。お宅のとも、

て来ま

防止は済みましたか、

毎年の例をみますと、

数百件の

にすることがあります。 ※但し都合によりやむを得ず中 ※会場=福祉センター

になりますので十分注意して下さ 皆さんにご迷惑をおかけすること

くなったり、修理が間に合わず、

寒さはこれからだんだん厳しく

け保温いたしましょう。 2 日当り

事が出来ないことになっていますず指定された工事店でなければ工ず指定された工事店でなければ工 北向きのところ の弱いところ

紹介します。 か・中学校の児童・生徒から明るい家庭づくりについて、「家庭の日」「家庭のできごと」「家族」と言う題で作文を書いてもらいました。ことに各学校三人の方々のものをほんの一例ですがらいました。

痛等が多くなります。

寒さに気を かぜ、

なると脳卒中、

神経

切って編んだ敷物は乾きやすく冬の足元に敷物を。ストッキングを風呂場、廊下、便所、台所など

昭和四十九年四月 昭和四十七年四月二日

一日まで

から

文

庭

0

H

の間に出生した者。

さ

に

注

◎足元にあったかさを

、保育対象者

つけてあったかい春までがんばり

には最適です。

◎部屋に寒暖計を

10より下ったらコタッだけでな

のです。

古くなった毛布、

敷布を

申込期間

畳の上と、

かけ布とんの上におい

昭和五十三年一月三十一日まで昭和五十三年一月二〇日から

てしめりをすわせましょう。

◎寝具のしめり気を除いて暖かく

冬は寝具の乾燥はむつかしいも

て下さい。)

元地区の主任保母と相談し

(三才児で入所希望の方は

スト

ーブ等で部屋全体もあった



0 ح 2

き

小学校二年 みやた よし子

さきに

かえりまし

た。

かえると

音が

くまか でも

きたろ。」といいました。 あちゃんが、「うめだの山まで あちゃんが、「うめだの山まで とっていると、おば でました。 うらの とりに いました。 いると なるかと しんぱいに きました。 ばあちゃんと すぎの木や だんだん 大きな だんだん こわくなってしま どんどん ありました。 おばあちゃん! 山から どこまでも いきました。 そこで とちゅうで わたしで きの 山のおくにいく 小さい木が かぶの 三人いっし んが、 わたしの まいごに とって なりまし ところに Vi ı

きの 見えな 見たら それは、 たしは、 と思い 見えました。 2 中で と思ったいや きこえたので わたしは、 「なんだ おかあさんが いいました。山の がさごそと あいこさんの おばあちゃんでした。 びっくりしました。 びっく りした。 いう

うちが 上から

くまだ

「いごいや。 「いごいや。 水をのみました。 といったので みんなで ゆりの花を つかれ うち れたので 見て

ので おかあさんと

わたしは、

おかあさんと

なりました。

日 時……25日

所……福祉センター

その他

1月の心配ごと相談

内 容……生活相談、医療相談、家事相談、

午前10時から午後3時まで

児童相談、身障相談、職業相談、

b

大事なときに水が使用できな水道管の破裂事故が起きており、

# わが家の楽し

い遊び

てくださいました。動物園で

今年の春は、

東京へつれて

んなをうつしてや

りまし

次に妹が本を読んだ。

写 け

2

読んだので、わらいごえが聞こえこの読み方は、はずかしがって、

たりした。 読んだので、

次にぼくが本を読んだ。

島田小学校 ると 三年 池 浦

隆

之

がきていそがしいので、家ぞくそ 日曜日でもはたらい くに家庭の日としてありません。 いるので、毎日 、の家では、 しょうば いそがしく、 たり、お客様 いをし

兄ちゃんは、

また

家では、 学一年のあつしで四人です。 年のねいちゃん、 者」になってかちますが、弟のあ びます。たとえばゲーム、パッたちは、いろいろなことをして遊 ゆだんしていると 番とくいなのは、人生ゲ つくったくじびきです。 チ、しょうぎ、野球、ぼくたちが めったにできません。でもぼくの ろって、出かけたり遊んだりは、 んめいしないと、 上手なのでよく見ていっしょうけ んど負けます。だからじょうずに らぎは兄ちゃんとする時は、 とあつしはくやしそうです。 中学一年の兄ちゃん、小学六 兄ちゃ きょうだいが大ぜいいま いつも負けます。 ぼくがかっているので あつしは、 いつも「おく万長 んを、負かしてみ 負ける時がよく ぼく、それに小 思わない所で しょうぎが ぼくの一 負ける ぼく ほと ムで しょ

をかけてくるからです。弟にまけ てしまいます。百人一首は、見つが、兄ちゃんは、いつもすぐとっせないように がんばるん です 声で りけり。 ると ます。 すが とい をつか い所につれていってくれます。 けは、だいたい大きいじゅんです。 て、 て、 けるのが たいへんむずかしいで たちは 兄ちゃんに つもすぐとってしまいます。 ということばをおぼえていて みじばは、たったの川のにしきな なります。 いんちきだのといって けんかに とくにさいごの方になると両手 お父さんは、毎日いそがしいで 「あらしふく かるたを一人じめにしたりし かた手でとりなさい。 います。さいごに四まいのこ 一まいづつ分けます。勝ち負 春休みになるとみんなを遠 とてもおもしろいです。 そうすると んちきやめ。 ったり足をつかったりし \_ するとお母さんが 手足ひっこめ ひきょうだの

んが百人一首をよんでくれます。 「ああまたやられたか。 みむろの山の たまにお母さ それをとら ぼく \$ が時は、 だなし パンダをみたことが しんをとりました。ぼくも

日やはれた日は、こんざつしてかりでした。おばちゃまは、日曜ので楽しみにしていたのにがっ 見れると いっていました。パンっている日にいくと らくらくと 見るのがたいへんだから 雨のふ わるくお休みでした。 パンダを見る予定でしたが を見るのは、なかなかたいへん し合いました。またあちこちで だれかが見えなくなって 人がこんざつしていて とき -と思いました。デパートで ぼくたちは 一度もない 2 た。

うん は、 園にいったり た。また食どらやレストランに てなかなかすぐとれませ ど東京は、人が大ぜい アイスクリ かなかいすが んをうつす時でも じゃまにな お父さんも いて んでし

きました。そこもこんでいて た。まっていてやっとで食べる トランプやミニゲームをしたり ことができました。それから ったりした気分で楽しそうで しました。帰りの汽車の中では、 来年は、どこにいくかと ムを食べたりしまし 地下鉄にのったり あきませんでし お母さんも te B 公 ٤

0 うちの家庭 0 H

ったり、 特別、 な形で決められていないのだ。 日曜とか、第二日曜というよふつうの日曜日ではあるが、 それに、一ヵ月に、二、三回や ぼくの家の家庭の日とい 決まっていない。 やらなかったりすること 第二日曜というよう っても 第

大

························· 広

\_

うことから、発言を活発にしてもが自分から進んで発言しないといなぜかというとふだんぼくや、妹 カセットラジオを用意した。 お母さん

や良い所を話し合う、やりかただ。 本を読むのを、ふきこんで、 この歌は、もっとテンポが速いの 初めに次女が歌を歌った。 ぼくが司会をやった。 ろ、ここはどうだ、などと悪い所 カセッ

ても楽しみです。

ぼく

島田小学校 六年 らいたいというねがい 宮 からだと思

田

清

ておもしろい歌い方になってしま たり、 かったのですごく時間が、かかっ 次女は、

> らだ。なかり、 ていって、 ちだ。
> なかり、田うえの手伝いをするかなかり、田うえの手伝いをするかなが、いていばくたちみんなで、いていって、ぼくたちみんなで、いていって、はくだちみんなで、い やる。 る。 はみんな、 ぼくのう 家庭の日だと考えて

休む時間がふつうより、

長

いきを大げさにすっ

ひろえなくて がっかりしま 手

伝

Va

えている、かれた芽を、手ぶくろはとてもむずかしかった。木にはあいかんたんだった。しかし、次

れてあるので、それをはこんでか

ぼくたちは米がふくろの中に入

心がうきうきするからだ。

とおしえて

くれました。

「わらじを

はいて

のりました。

とっても たかいすべりだいに

飲んで、また仕事場にもどって

また次の仕事を始めた。

家に行って

水を二はいほど

仕事をおわら

せて

るで王子様になったような気分で いろいろなもてなしをされて、

T

せんそうを

したんだよ。」

で

あそびました。

ま

おかあさんが「わらじを

は

い

そして、かえるまで こうえん

インでいねかり。

お父さんは、

コンバ

んそうきの中に入れる仕事だ。

ぞと思うのもこの時だ。

なんて、

すごいなあ。

ᆫ たたかった

おも

すべるところが

ぐるぐるまわ

木を、

なたで切った。

なんべんも

ました。

そして、

きっと立ばな人になる

こういうふうに、それぞれ分た

作業がのうりつ的にできるので

んしてやる。

分たんしてやると、

でつとめにでたり、帰ってきて

ふだんは朝早くから夜おそくま

よいやり方だと思う。

また一人でやるより、

家中で仕

5

ぼくの家の日曜日は、家ぞく

にゆっくりする時間がない、だか ら田畑をしたりでなかなか一しょ

を

しようと

おもったのですが

いなのです。

そこを

でてから

石ひろい

ゆうが って

一めで

みわたせるくら

いて

のぼると

こうえんじ

切っているうちに、うでのあちこ

いい石が

なくて

たった二つ

なんかいも

のりました。

3,

木を切った。

なれない事を、

事が終わった。こんどは山へ行

ちを切ってしまったが、

やっと仕

とても

おもしろかったです。

とつぜんしたから、うまくいかな

いだろうと思ったけれども、

わり

事をしていると、

なんとなく、

しくかんじるのだ。

「これからだよう。

つかれて、 をはめて、

それをとったが、

すぐ

の人がやってくれたので、

ってくれたので、たいへ、弱ねをはいた時は、家

んうれしかった。そこで、

ころ、 げた。こんどは、竹やぶへ入って家へ持って行き、小屋の二階に上 じゃないよ。」と言 どもくり返した。時々、母が、 おばあさんに、 た。手や体が、 って、庭にはこんだ。それをなん なたで竹を切り、それを二つにわ たばねた。それを、 まず、畑に行って 「あれ、もう、 「だいじょうぶかね。手を切る やっと、 仕事が終わって、 ま くたくたになった 手にかかえ、 わらや、 ってく 草を

広

報

ひとへ

5

つたこと

桐島小学校

年

\$

まさこ

ろに

はいって

みました。

わ

それは、プレゼントがもらわれ、

とくに自分のたんじょう会だ。

ている。

だろうかなあと木曜ころからまっ

やってきた中でいちばん楽しい

0

そして、

こんどの日曜日はなん

し、これまでにいくつか、

楽しみだ。

たんじょう会だ。

いころげることもあった。

いろいろなおしゃべりをして笑

庭の日とい

ってもよいと思う。

ぼくは、

こんな日曜日が大へん

会をもったりするので、 そろって仕事をしたり、

いつも家

たのしみ

しかた。ハ

四年 柄 沢 明

手伝いをする 映 らたらと、 ねころんだ。そして、

た。それに、 った。 て歌ったのでとても、おもしろかしらないのか、次女におしえられ その次はお父さんが歌を歌った。 らないが、まあまあだと思った。 うまいか、 お父さんは、 最後はお母さんが歌を歌った。 へたなのか、よく その歌をあまりよく ふざけすぎて歌っ った。 わ

この歌もテンポがおそか まきもどしをした。 そして聞いてみると、ぼくの声 それから、ぼくが司会なので、

すごくおもしろい声になるのでそ れが気になった。 はカセットラジオにふきこむと、 それで次回からは声のだし方を

考えなくてはと思った。 にふきこみをやったが、このほか このように、 今月は、 カ セッ

ラジオに歌や

いろ

VC, 田んぼの仕事などで、 おたんじょう会、 ちでやるこれらの行事 大そうじ、 日曜によく 1,

日曜日、今日は、

桐島小学校

いったかね。

た。それから、しばらくの間、と、負けおしみを、言ってしま ばった。ひたいから、あせが らなければ、休めないのでてきた。けれども、ひと仕 たらいている。はたらいているう ているけれども、 ているように見えた。 なの顔をみたら、 のぼって、ものすごくあつくなっ こいを作った。ひは だんだんと て、それをひもでむすんで、竹が を草のまわりに なんべんも重ね と、おじいさんの所へ行って、 つかれてしまって、草たばの上に じいさんの手伝いをしていたが ちょ 出てきた。ふと、 っとねむく 楽しそうに、 目を細めて笑っ ひと仕事おわ あせがたれ 休んだあ みん がん 7 た 竹 お

声で、 た。ふと、 5 ろいだろう。 まっ黒だったのでぼくは、 いたわりながら話し合って 黒だったのでぼくは、大、ぼくは、父の顔をみたわりながら話し合ってい

て、少し「つかれたか。

**」とか** 

きりかぶのある中心地へ集まっ

「どうだ。

つかれるけど、

おもし

みしようと、家族全員で、

大きな

みんなも、 Ł, 「たぬきみた 「ははははは。 言った。 そしたら、 まわ

てきたし、 た。 と笑った。 った。ひは、 けれども、 あせが光るほどだ また仕事に、 だんだんと照りつ もう少しで終わり とり か つけ

たまの ているよ。 子は向こうで、 うっ 言われた。 すると、 しっ

おま 中 した。 なかたなが した。 むかしの あとが よろいに いろいろなか おおたちと いが

しょに おかあさんに つれていこへ あそびに いもうとといっ さいしょに じんじゃに きょうは てんきが もらいました。 ないしょです。 しました。 二つおねがいしまし ほうもつでんと いものが あるとこ いいの 「なぜ いろいろなえを

って

かけるのかなあ。 あんなに てっぽうの よろいや ありました。 」と おもいま じょうずに みたとき、 らも ありま

ありました。 いら大きな大き なぎなた

たが

それから

めずらし

いりを

わたしは

かり ぼくは はたら 11

った。山のがん山の

ようし、

村の人たち

少しつかれたらしく、

楽しく過ごせるのは、

とっても幸

かできない。

正月がやってくる。

「おい、

桐島小学校

六年

田

5

と、声をかけられた。そして、「よくはたらいているねえ。」 らくなっても、まえに、言われた 9

ことが、ひとりでに、頭にうかん

事を、 族全員で終わった時は、 て、 b いしかった。 た。昼ごはんを食べた。とてもお でくるので、 思いきりやった。そして、家 そう言ってくれるなら早く仕 おやさなければ、と思っ 昼だっ

### 家族そろつてのト ・ランプ

ランプでもしよう。 ビもおも白くなかったので、 き、私たちも勉強が終わり、テレ 母もちょうど仕事が一だんらくつ んなそろってト この間の夜、久しぶりに家族み すぐに、みんなが賛成してく ランプをした。 」と言った

わ

よくわからないらしいので、妹とバぬき」をした。祖母はやり方が一なので、最初は、かん単な「バ が、数が少しになると、ババをう 顔をしてトランプを回 して いた 組むことに決めた。 始めのうちは、 みんなが楽しく遊べることが第 みんなまじめな

になっていった。一回目は父、二みんなが大笑いになり、にぎやかがきた。」と妹が大声を出すと、 バがきてしかめっつらをしたり、 まく取らせてにやりとしたり、 「バッバがきた、 日は父、二 バッバ

> な表情だった。二人とも嬉しそう 回目は母が一番になったので、 私

体をのり出し大さわぎになった。りして、みんなが真けんになって なあ。 や れ、とんな。ちがうとこにしわざとうそを言ってみたり、 で、二回目は父の勝ちだった。一回目は、だんぜん 私の 勝 こそこ、そこにあったろう。」と、 なくなると、私たちが、「ほら、そ た。それでも、トランプの数が少 れてちょっとざんねん そう だっのが難しいらしく、私たちに取ら p ずくすくすと笑ってしまった。母 らすがおかしくて、私と妹は思わ をかしげて考えこむので、そのよ 父は、トランプをはぐっては、 「どこにあるか、わからんもんだ 次に、 」と父が本気になって言った とんな。ちがうとこにしれい 」と、さも不思議そうに首 ランプの位置を覚えている 「神経すい弱」をした。 「そ 5

> 不満のようで、妹が、回も勝っていない妹、こ にした。 ったので、 う少しやろうよ。 もう一回だけやること 」と強く言いは 祖母の組は 「やら、も

が勝った。 やった。 がえるのも無理もないことなのだ始めてやる父母にとっては、まち 2 考えずに、むやみにダウ た。やがて、 くなるようでどうしようもなかっ けれども、 かしくて笑いが止まらなかった。 てしまったりで、 り、 そのことばを忘れて、 説明してやった。それでも、 んだったかな。 た。この勝負は、 のかけ声が続き、 「ダウト 母があわてて表を向けて出 やり方を始めに父と母に 私たちはすぐにおかし (うそ) 自分の勝ち負けなど 」と考えこんだ 私たち二人はお 幸いに妹の組 」というの にぎやかにな 「何とい 父は ダウ 5 を

そうだった。 きこむようにして言うと、 勝ってよかったね。」と顔をのぞ 「よかった、よかった。」と嬉し 祖母も

言った。家族そろってにぎやかにたやるか。」と楽しかったように 」と少しつかれたようなか 母も、 「こんどま 2

くか。」と言いだしたが、まだ一

妹が、 「ばあちゃん、一回でも

のです。

お酒が好きなので、

9

ずつ寿命が短かくなっていくんだ す。だって一本につき五分ぐらい

族は、困まってしまうことがある

ます。そんなときたまに、

飲みすぎるのでしょう。

ものすご

もの。

まだまだ長生きしてもらわ

ないと困まるのですよ。

自分の体

く酔って帰ってくることがあり、

す。言い遅れましたが、お父さら私はいつも禁酒、禁煙を勧め で覚えていないと言います。 です。翌日このことを話すとまる

このへんで今日はやめて

ます。 で多少帰ってくるのが遅れたり 朝七時三十分頃になると家を出 うな、直しましょう。 じゃあ、みんなの家庭にもいるよ なという言い方はおかしいかな、 柄の人です。どこにでもいるよう 酒とたばこが大好き」で T ものをあげてみる。 私のこの平凡なお父さんは、 5

こうで言うと、 た。 父が、 「ああ、 おも L ろ か 2 私や家族は、手におえなくなるの

遊ぶことができそうでいてなかな ビを見たりするので、いっしょに も母も会社に勤めているし、 いっても私たちが勉強したりテレ

今から

せなことだとつくづく思った。 夜と 正月がとても楽しみだ。 えておこうと思っている。 ごせるように、いろんな遊びを考 度は、もっとゆっくりと楽しく過 やがて、



私

0

な

父さ

北辰中学校 一年 JII 久美子

普通の、どこにでもいるような人 「子供みたいな面がある」「お 夕方六時頃になると帰ってき ちのお父さんの性格と好きな 同じ仕事の人とのつきあ 「やさしく」 私や家 あとは 毎 です。 いのです。 先に止めさせなくてはと、思いま どちらかというとたばこのほうを 目に取りあげましたが、 づく思いました。あんまり感心も ろは大嫌いです。お酒とたばこ、ら。私は、お父さんのこんなとこ またしても車の中で吸っているの していられないので、十一、二本 たのですよ。 酒を飲みながら、なんと十本だっ の家にいったときに、 たばこのどこが たばこの量も、 私や母のこごとに耳もかさ 一時間たらずで、 このあいだ、 すごいなあと ものすごく多 いいのかし かぞえてみ 帰り道、 それもお おじさん つく

うで、 で、 ぐらい大切にしなさい。 は、弟や兄と野球をしているとき 私の一番好きなお父さん 入っていきたいくらいなのまるで子供みたいで楽しそ の姿

だか

なった、おじいちゃん、おげんなが元気でいられるのは、

なく

今まで私たちを育ててくれた、 いつまでも健で

れるでしょう。 なら少しぐらい

「お父さんも、 へたでも入れてく

今

ていったと思います。そういう面

勤労感謝の日も仕事に出かけ

Ħ

曜日、

父の日も、十一月二十三

れればよかったなと思います。男

本当に、私は男に生ま

ていないのですが、六月の第三日あるのです。はっきりと記憶はし

も休みにならないことがしばしば

建築業です。です

から、日曜日で

たなのでいれてもらえません。こ

ご、牙まなんてものは、すごくへですが、あいにく私は運動オンチ

年で四十二才あと何年くらい野球

つまでも、

お父さんの、

子供みた

謝の言葉一つかけてやっていない

いな面を見ていたいと思います。

のです。

心の中では、「大変だ

考えることが最近あるのです。

をやっていられるのかな」なんて

そんなお父さんに私は、今まで感働いてくれているなと思います。で大変だなあ、と思ったり、よく



「やさしい人だ」と言う でしょることができず少し考えてから

と聞かれたら私は、

すぐ返答す

「お父さんは、

やさしい人か。

う。兄や弟はすぐ「やさしい」と

### 我が家 0 ح

北辰中学校 二年

我が家のかわいい一員となってい

る。そのことを少しくわしく書い

で一日が始まる。 います。」「おはよう。 家族の中で、 の家では、朝「おはようござ いまさら挨拶なん 」の挨拶

報

父さんの性格というものがわかっきないかというと、私にはまだお

ていない

からなのです。短所をい

父

わ

答えます。

なぜ私にはすぐ返答で

広

はよう。 必ず、 ない。 た時には、 がとう。」の言葉を必ず言う。父 かしてもらった時には、 「おやすみなさい。」また、何ます。」「ごちそうさまでした。」 てしなくてもよいと思うかもしれ 母や私たちが、何かしてやっ しかし、 「ありがとう。 」の挨拶や、 どんな小さな事でも、 私の家では、「お 」と言う。 「いただき 「あり 何

なさい。」などの言葉をかけられ 「ありがとう。 やはり、 気持ちがよ 」とか「ごめん ろって、 5

う、わかり合おうと思っても、 できていないのです。理解し合お

か生きていない、子供だと

さんと理解しあっているのでしょ ているでしょうか。兄や弟はお父 なのです。私はお父さんを理解し の長所をよくわかっていないから くつか、見つけだしていても、

いいえちっとも理解なんて

けていこうと思っています。

のお父さんの仕事は、

ると、

父や母は、 夕食を供えて、

いつ

おま

なったらそのことに大きな目を向

から、

私はもっと大人に

いうハンデがあってできないので

中で反省しています。 く恥ずかしくて言えないのです。たい気持ちになっても、なんとな てくれるかもしれません。 は、今までの働が報われたと思っ その言でもしかしたら お父 さん 今、なぜか

できればと、思います。 もがんばってね。 お父さんに「ありがとうこれから

あげたいと思ったり、 もっともっとよいことをして 「ごめ ん

てみたいと思う。

と言うが、これは、 の習慣がついている。 こちらだって悪かったんだなと思 ね。」とあやまられたりすると、 ったりする。小さい時から、 挨拶は、明るい社会の潤滑油だ 家庭でも同じ 挨拶

拶をする。夕食前こよで、仏様に挨とには、みんなが必ず、仏様に挨 る時とか、 に仏様をおまいりするということ ことだと思う。 それから、家でやっていること ある。 朝、 保育園や、学校へ出かけ 私たちは、 外から帰って来た時な 小さい時 か

> P 様におまいりをしていた。 のように、我が家では、仏様は、ばあちゃんに見せてから開く。こ を飼っているが、このうさぎも、 家族の一員のような存在なのだ。 のを聞いて、母は、 るからなんだよ。 ったの。」と確かめて、 っぱらいに自転車をぶつけられた ゃんや御先祖様が守っていて下さ 今日も、 また何か買ってもらった時など それから、私の家では、うさぎ 必ず仏様のおじいちゃん、 姉が、学校の帰途、 」と言う。 「けがはなか おばあち すぐに仏

先生から、 助けて、 いた時、 でのみ込まれようとしていたのを 間、美術室の外で校舎を写生して 持って帰ったら、 え。」とおっしゃった。 の子は、育たないと言うけれどね うさぎを入れながら、 も心配なので、 さなうさぎを、また、 が、親うさぎとはぐれたこんな小 いう話は、前から聞いていたのだ 野うさぎの子は、 今年の春、私が、学校の裏山か 家に連れて帰ったのだ。 ヘビにもう少しのところ コンパスの小さな箱に 飼うことにした。 育たないなどと 父や母は、 山へ逃がす 私は家に

> そんな ぎをのぞき込んだ。母は、さっそ び方をしているね。」と言った。いだけれど、ちゃんとうさぎのと ら、雨にぬらさないように、大事言うだろうと内心不安に思いなが てやると、母は、そっとその上にれた。私がその中にうさぎを入れ をしいて、うさぎの家を作ってく や弟が帰ってきて、一緒に、うさ にとんだ。母は笑って、「りすみた と、うさぎは、あぶなっかしい様 うさぎをカーペットの 上に おくことだった。私は、箱から出して を死なせてはかわいそうだと言う を飼ってもい に持ち帰った。 くティッシュペーパーの箱にわた ってしまったが、しかし、 「こまったねえ。 一瞬、 ことをして 飼って悪いのかと、 い 帰って母にうさぎ かと聞くと母は、 」と言った。 いるうちに姉 うさぎ と私

お

私はほっとして さぎは急いでそれを吸 さぎの口に近づけた。 そっとだき上げ、 で、 私たちが、 小さな器に入れたミルクを しあたためたミルクをひたしてら と途方に暮れていると母が来て、 口に近づけてものもうとしな わたをかけてくれた。 大変なのは、 死んでしまったらどう このまま何も食べない えさづけだった。 だっしめんに少 すると、う すると、

「これなら育つ と言 うさぎはまだ小